

編 集 後 記

○ 折角出来上つた28年度予算も議会の解散でおじやんになつた。28年度計画の新規事業も皆足止めになつた形である。

本号の出る頃には総選挙もすんで政権の行方も明になつている事と思うが、左が出ようが右が出ようがも少し国民医療に熱心な政府が出てほしいものだ。国民の望んでいるのは、優秀な医療専門家は勿論であるが医療専門家の腕をふるう場所、即ち病院をそれ等の人の小規模の個人企業にのみまかしておくのはあまりに無責任ではあるまいか。

○ 近頃各種の団体で色々の公共病院が作られつつある。併どこでも医師会の反対運動に出会つているという事である。この様な医師会の反対をうけるという事については、病院側も大いに反省の必要があるのではあるまいか。折角の高価な診療設備も2,3の病院医師で独占されるという事は非常に不合理な事であり、外から利用するという事も病院の組織が根本的に変らぬと利用しにくいものである。病院の組織の変更という事も基礎的な研究が行われて始めて行われる問題である。本誌はその意味で従来全体的理念については大いに

役立つた事であると思うが、この辺で個々の問題をさらに深く掘り下げねばならぬと思う。

○ 毎号病院各部の研究論文が次第に集る様になつたのは喜ばしい。各病院の実務に従つてゐる諸君の御投稿を歓迎する次第である。

○ 本号には小西宏君の英国よりの寄書があるが氏は既に帰朝されて、色々と面白い話を伺つてゐる。次々と色々のお土産が出るものと期待してゐる。

○ 内野仙一郎氏は同じ問題を別の方面から資料を集められているので並べて戴く次第である。

○ 村上実氏の問題は、どこの病院でもおきる問題であるので非常に興味がある。氏の説も一つの見方であるが多数の方の御意見も伺いたい。

○ 岩佐潔氏は、毎号医療の社会性について明快な結論を出されているが今後を期待したい。

○ 家田三郎氏の「越後府病院印」は貴重な病院文獻である。各病院共新旧にかかわらず色々の歴史があるものだが是非本誌を利用して記録を残される事をおすすめしたい。

(守 屋)

表 紙 説 明

写真は愛知県半田市立病院の正面入口

病 院 要 覧

厚生省医務局・病院管理研修所資料による

病院の合理的運営、管理については、最近特に関心が高まつて來たけれども、未だ欧米の病院と比べては、改善すべき多くの問題が残されている。本書は、これ等の研究に最も新らしい資料を提供するもので、病院関係官廳機構、学校一覽、関係法規を始め、病院の各種分類、人口死亡出産等の主要統計 及、全国病院一覽表(院長名、所在地、保健所名、診療科目、病床数、経営別)を附している。

¥ 1,200 円 60

醫 學 書 院 刊